

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	3611513148
法人名	医療法人 弘生会
事業所名	グループホーム矢野
所在地	徳島県板野郡藍住町矢上字西160-29 (電話) 088-692-3025

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12 日

【情報提供票より】(平成 20 年 8 月 24 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤:5人、非常勤:7人、常勤換算:1ユニット5.2人 2ユニット4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:3,000円、その他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 24 日現在)

利用者人数	13 名	男性	2 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	67 歳	最高	84 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢野医院、トビウメ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの周囲には水田が広がり、黄色に実った稲の穂があたり一面を埋め尽くしている。敷地内には同法人の医療機関があり、協力体制を整えている。朝夕は全員で屋外に出て、ベンチや椅子にかけて思い思いの過ごし方を楽しんでいる。また入居前に飼っていた犬や猫を事業所の庭で引き続き育てるなど、利用者の希望にそってできるだけ自由な暮らしを支援し、家庭的で穏やかな雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型サービスとしての理念」、「地域との付き合い」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「鍵をかけないケアの実施」は改善されている。それ以外の課題については管理者、全職員が話し合いを行っているが改善には至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者、全職員が話し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年8月以降、運営推進会議は開催されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	常に家族との意見交換を大切に考え、来訪時に報告をしたり意見を聞いたりしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の清掃やお祭り、小学校の運動会などに参加して地域住民との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心とやすらぎ」といった理念を作成している。家庭的な雰囲気の中で地域とともに安心して暮らせるよう、地域密着型サービスとしての役割を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい職員には経験者が一緒に関わり、理念の実践に向けて取り組んでいる。地域との交流もよく行われ、利用者と職員が本当の家族のように寄り添い穏やかな雰囲気の中で支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃やお祭り、小学校の運動会などに参加して地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、全職員が話し合い作成している。前回の外部評価結果の課題についても全員で取り組んでいる。しかし、まだ摘み残した課題もある。	○	外部評価結果において示された課題を活かして具体的な改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年8月以降、運営推進会議は開催されていない。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、入退居状況の報告を行っているが、それ以外に市町村と交流する機会を持つには至っていない。	○	事業所の取り組み状況を報告したり、助言をもらったりしながら市町村と共にサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の健康状態や暮らしぶりを報告したり、ホーム便りなどで行事の内容を伝えている。金銭管理の記録も報告し、家族からのサイン・確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の来訪時に要望等を聞いている。しかし、口頭での聞き取りだけで記録が残されていない。また前回の課題である配布書類などへの公的苦情受付窓口の明示もされておらず改善に至っていない。	○	家族の要望等は記録に残し、運営や外部への公表に活かすことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしたい支援を行い、離職などやむを得ない場合には引き継ぎ期間を十分に設けるなどの取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や案内があった外部研修などへ参加している。しかし、職員の能力や資格取得に応じた研修が計画的に行われていない。また研修が全職員で共有できるような取り組みが行われていない。	○	職員の能力や資格取得に応じて計画的に受講できるよう年間計画を立てて取り組むことが望まれる。また研修内容は全職員で共有してサービスの質の向上につなげられるよう記録に残し、回覧するなどの取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会などで出会った同業者と情報交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には1日体験や、試しの宿泊をしてもらうなど場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを他の方の協力も得て実現させたり、得意なことやできる事を活かして家事を分担するなど、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に飼っていた犬・猫を事業所で育てられるよう配慮するなど、利用者一人ひとりの意向を大切に生きがいや望みがかなえられ、喜びを感じながら暮らせる支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の意見や思いを取り入れ作成している。また家族等のサインももらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しと、状態などの変化に応じた随時見直しをする機会を設けている。しかし見直した内容がプランに反映されることなく、整合性のある継続的な支援が行われていない。	○	介護計画を見直した際はその内容を記録し、現状に即した支援が継続的に提供できるよう取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて病院への受診や理美容院への付き添いなどを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望するかかりつけ医を把握し、継続して受診できるよう支援している。また受診時にはかかりつけ医と情報交換を行うなど適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には利用者、家族、かかりつけ医、職員などで話し合い重度化した場合や終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の言葉かけは他者に気づかれないようさりげなく行うなど、利用者の誇りを傷つけないようプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、家事や手芸への参加などを支援している。また利用者の体調を気遣いながら無理のない範囲で参加できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、盛り付け、後片付けなど利用者一人ひとりの能力に応じた役割を分担し、食事をともに楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場には汗をかく度にシャワーを浴びられるようにするなど、利用者の習慣や希望にそった入浴が支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を分担したり、手芸やDVDを楽しめるよう居室づくりを工夫するなど、一人ひとりの希望や習慣を大切に役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は朝から戸外のベンチに腰掛けたり、花壇の前で新鮮な空気を吸ったりして外気にふれるなど、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はすべての出入りに鍵を掛せず、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて防災訓練や避難訓練を行っている。しかし地域への協力を得られるような働きかけは行われていない。	○	非常災害時に地域の協力を得られるよう働きかける事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人施設の栄養士による指導・助言を受けている。栄養・水分摂取量については全て記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計やカレンダーは見やすい位置にあり、壁面には利用者手作りの作品が飾られ優しい雰囲気を演出している。ベランダにはベンチを配置し、食後にみんなでくつろげるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手芸台やDVDなど使い慣れたものや好みのもを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また仏壇を置いておられる利用者もいる。		